



2020年9月7日

各 位

長野県北安曇郡白馬村大字北城 6329 番地 1  
会社名 日本スキー場開発株式会社  
代表者の役職氏名 代表取締役社長 鈴木 周平  
(コード番号：6040 東証マザーズ)  
問合せ先 財務経理本部長 佐藤 祥太郎  
電話番号 0261-72-6040

## <マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

### ○開催状況

開催日時 2020年9月7日 15:30~16:30  
開催方法 対面による実開催  
開催場所 千代田区丸の内1-2 東京サンケイビル3階  
大手町サンケイプラザ 312号  
説明会資料名 2020年7月期 決算説明資料

### 【添付資料】

決算説明会において使用した資料

以 上

# 2020年7月期 決算説明資料

2020年9月7日(月)

長野県北安曇郡白馬村大字北城6329番地 1  
日本スキー場開発株式会社  
(証券コード：6040)



## 1. 決算概要

P. 3

## 2. 施設別状況

P. 9

## 3. 2021年7月期計画

P. 16

## 4. Appendix

P. 24

## 1. 決算概要

P. 3

## 2. 施設別状況

P. 9

## 3. 2021年7月期計画

P. 16

## 4. Appendix

P. 24

## 【PL】

- ✓ 気候変動に対応しつつ上期までは過去最高売上を達成。しかし、コロナの影響により減速
  - ・ +) 冬季来場者数：川場が前期比+25%
  - ・ +) 冬季売上単価：めいほう例年並みまで回復
  - ・ -) 緊急事態宣言：冬季営業早期終了。グリーン営業開始も延期
  - ・ -) 気候変動：前年10月の大型台風、記録的暖冬小雪、梅雨明けも8月に
- ✓ 保有資産の合理化
  - ・ 固定資産売却による特別利益の計上。減損損失の計上と繰延税金資産の取崩し

## 【BS】

- ✓ 財務状況
  - ・ 冬季の営業ができない事態に備え2,150百万円の借入を実施
  - ・ 2,487百万円のネットキャッシュポジション
- ✓ 投資状況：合計1,028百万円
  - ・ 小雪対策投資：115百万円
  - ・ グリーンシーズン事業投資：80百万円
  - ・ 開発用地取得：237百万円
  - ・ 既存施設への投資：618百万円

## ウィンターシーズン：3月前半より影響が出始め、緊急事態宣言により営業休止

- 3月前半より新型コロナウイルス感染症の拡大による団体顧客の減少やイベント等の中止があり、4月7日に東京など7都府県を対象に発令された緊急事態宣言により、オープンしていたスキー場を順次早期クローズ
- インバウンドは12月後半から2月後半までの期間の来場が中心であるため、新型コロナウイルスの影響は限定的

## グリーンシーズン：オープン延期と団体旅行減。アウトドアへの需要はあり

- 例年は2020年4月下旬から施設ごとにグリーンシーズン営業を開始するが、緊急事態宣言により、HAKUBA VALLEY白馬岩岳マウンテンリゾートは5月16日(当初予定4月29日)よりオープン。竜王マウンテンパークも例年ゴールデンウィーク営業を行うが今年は休止し、5月23日から人数制限などを行ったオープン
- 各施設とも天候に恵まれる日は近県のお客様を中心に来場があったが、バスツアーの激減や新型コロナウイルス感染症拡大に伴う継続した外出控えの影響あり
- その一方で、アウトドアに対する需要はあり、めいほう高原では例年を超えるキャンプ来場あり

- 前年・計画対比： 2019年10月の台風19号及び暖冬小雪の影響を受けるものの、上期までは好調に推移。しかし、コロナの影響による営業休止、外出自粛等により減収減益
- 雇用調整助成金等の補助金68百万円を営業外収益として計上。その他、子会社の固定資産譲渡による特別利益375百万円、減損損失138百万円、法人税等調整額235百万円を計上

## 損益計算書等の状況

(単位：百万円)

	19/7期	20/7期	増減	前期比
売上高	6,628	6,063	△ 565	91.5%
営業利益	629	317	△ 312	50.4%
経常利益	634	388	△ 246	61.2%
当期純利益	607	139	△ 467	23.0%
EBITDA	1,185	876	△ 309	73.9%
運営スキー場数	8ヶ所	8ヶ所	-	

## 【来場者数】

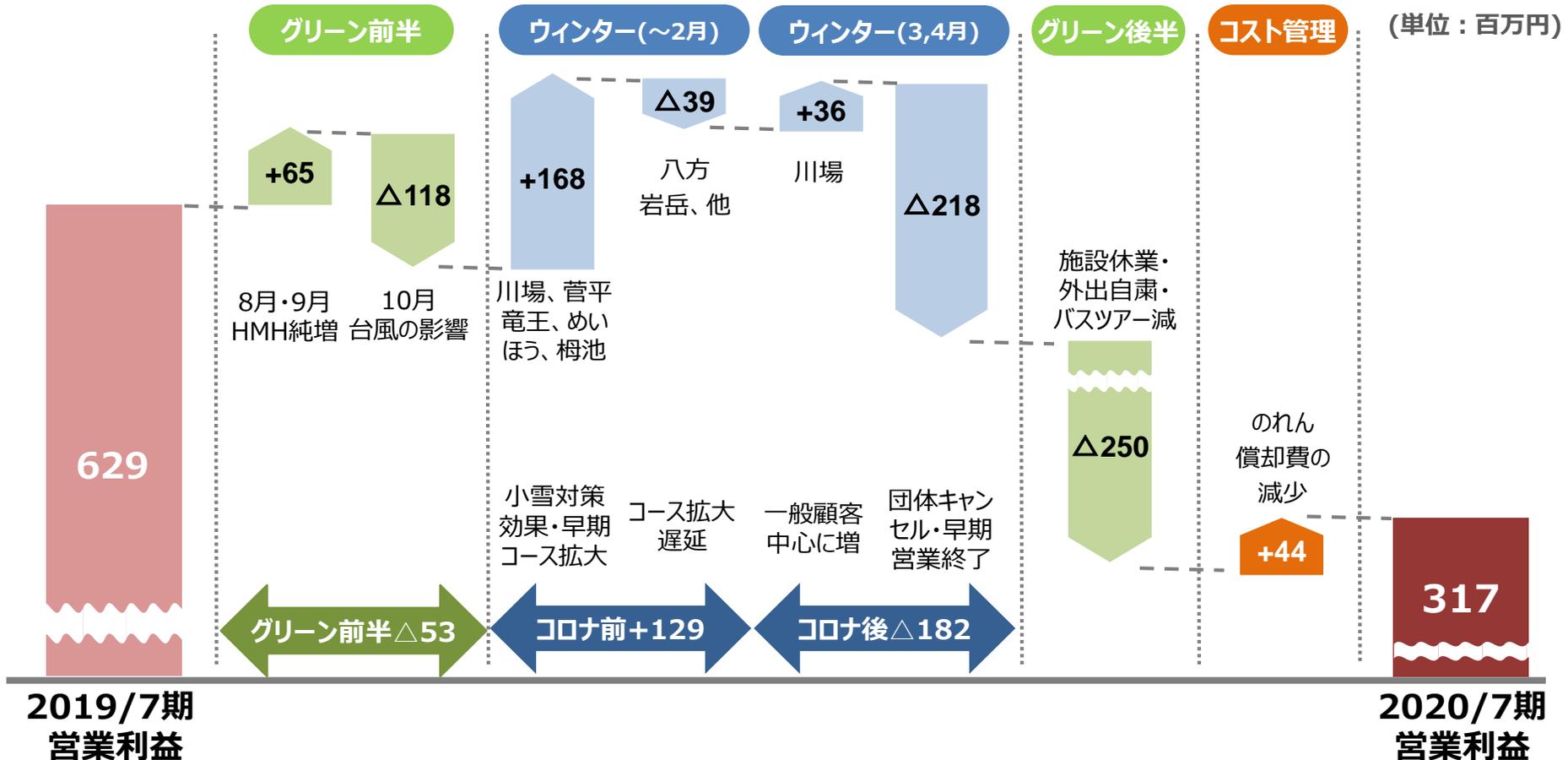
(単位：千人)

ウインター	1,691	1,463	△ 227	86.5%
グリーン	369	308	△ 60	83.6%
来場者合計	2,061	1,772	△ 288	86.0%

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

# 20/7月期 営業利益増減明細

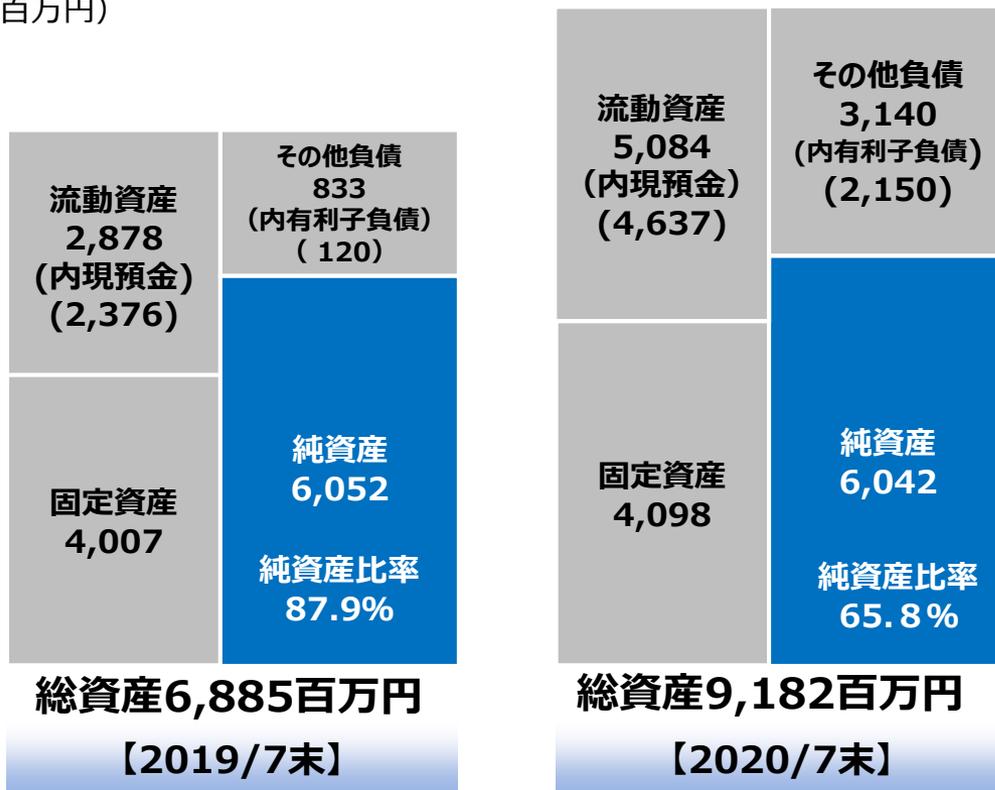
- グリーンシーズンの台風、暖冬小雪の影響を受けるものの2月までは好調に推移
- しかし、3月以降はコロナの影響により、団体顧客やイベントのキャンセルが出始め、緊急事態宣言により早期営業終了。グリーンシーズンもゴールデンウィークから営業を開始するが休業となり、外出自粛やバスツアー激減、また、昨年を超える梅雨長期化の影響も受けた



- 冬期の営業ができない最悪の場合に備え、総額2,150百万円の借入を実行

## バランスシートの状況

(単位：百万円)



- ✓ 短期借入金：1,000百万円  
長期借入金：1,150百万円
- ✓ 長期借入金のうち1,090百万円は利子補給制度に基づくものであり、実質無利子
- ✓ コロナ禍でも小雪投資とグリーンシーズン投資を継続し、差別化を図る

## 1. 決算概要

P.3

## 2. 施設別状況

P. 9

## 3. 2021年7月期計画

P. 16

## 4. Appendix

P. 24

# 19-20シーズンのオープン状況

- 暖冬小雪により全国的にクローズするスキー場が多い中、グループスキー場はこれまで行ってきた小雪対策投資により概ね前年並みのオープン
- 今後も各スキー場で小雪対策投資を継続する方針

運営スキー場名	2018/7期	2019/7期	2020/7期	前期対比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	11月21日	12月15日	12月6日	9日早い
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	12月9日	12月21日	12月31日	10日遅い
柵池高原スキー場(HV)	11月25日	12月15日	12月16日	1日遅い
鹿島槍スキー場(HV)	12月10日	12月15日	12月14日	1日早い
竜王スキーパーク	11月23日	12月2日	12月1日	1日早い
川場スキー場	11月25日	12月3日	12月6日	3日遅い
めいほうスキー場	12月9日	12月15日	12月9日	6日早い
菅平高原スノーリゾート	12月2日	12月10日	12月7日	3日早い

# ウィンターシーズン 全体来場者数

- スキー場全体の来場者数は昨対比13.5%の減少
- 周辺スキー場のオープンが遅れる中、降雪機投資を継続していた川場、菅平、竜王がシーズン半ばまで好調。しかし、3月前半からコロナにより団体顧客が減少し、4月7日の緊急事態宣言により、オープンしていたスキー場を順次早期クローズさせたため集客減

## ウィンターシーズン来場者数

(単位：千人)

運営スキー場名	2019/7期	2020/7期	前期比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	396	299	75.5%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	119	52	44.2%
柵池高原スキー場(HV)	285	242	85.1%
鹿島槍スキー場(HV)	93	81	87.3%
竜王スキーパーク	222	203	91.5%
川場スキー場	146	183	125.4%
めいほうスキー場	188	169	89.9%
菅平高原スノーリゾート	239	231	96.3%
スキー場計	<b>1,691</b>	<b>1,463</b>	<b>86.5%</b>
その他(かわばんち、おに助他)	14	13	98.3%
合計	<b>1,706</b>	<b>1,477</b>	<b>86.6%</b>

(\*)HV : HAKUBA VALLEY

# ウィンターシーズン 各スキー場のインバウンド来場者数

- 白馬エリアでは最もコースの拡大ができた柵池が増加したが、八方・岩岳はコース拡大が遅れ、他スキー場に顧客が流出。HAKUBA VALLEY10スキー場のうち、コース拡大ができたスキー場にインバウンドが集まる
- めいほうは高山市への自社バス運行により、インバウンドは約2.0千人まで増加(前年約0.5千人)

## スキー場別 インバウンド来場者数

(単位：千人)

スキー場	17-18シーズン	18-19シーズン	19-20シーズン	インバウンド比率	前期比
HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場	156	158	130	43.6%	82.6%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド	18	24	9	17.9%	38.0%
HAKUBA VALLEY柵池高原スキー場	34	43	53	22.2%	123.0%
HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場	1	1	2	2.6%	114.4%
白馬エリア合計	<b>209</b>	<b>228</b>	<b>196</b>	<b>29.0%</b>	<b>85.8%</b>
竜王スキーパーク他3スキー場	4	4	8	1.1%	195.0%
合計	<b>213</b>	<b>232</b>	<b>204</b>	<b>14.0%</b>	<b>87.9%</b>

(\*)HV : HAKUBA VALLEY

HAKUBA VALLEY10スキー場全体のインバウンド来場者数は367千人(18-19シーズン)、375千人(19-20シーズン)

# ウィンターシーズン チャンネル別来場者数

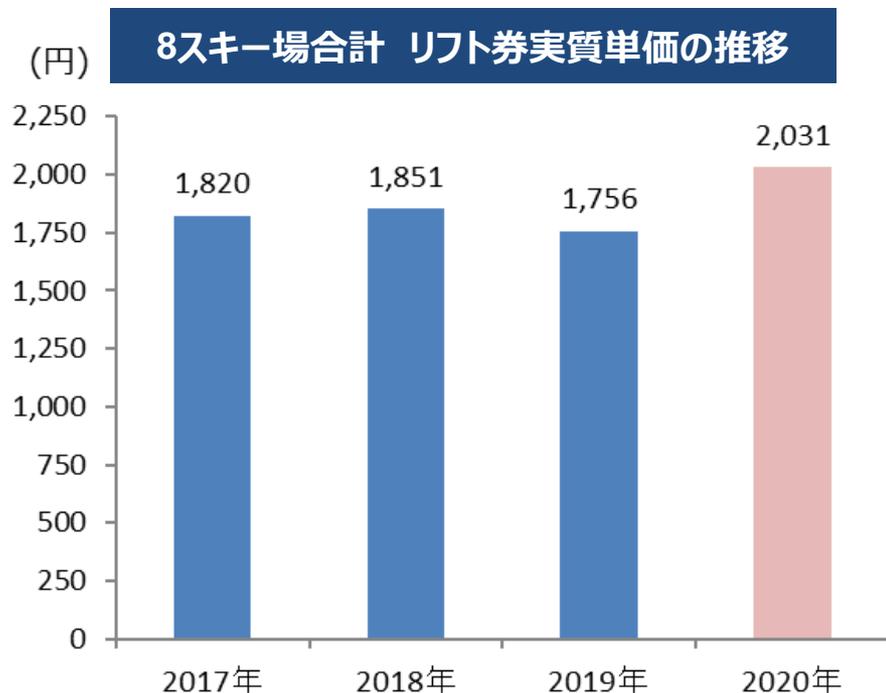
- 3月以降、春休みによるツアー会社利用や団体・修学旅行チャンネルが増加するが、今期はコロナによるキャンセル・営業休止により減少
- また、地元旅館宿泊券は年末年始も雪が不足し、例年ゴールデンウィークまで営業できる白馬エリアが減少。キッズパークも麓にあり、雪不足によるオープン遅延が影響
- 窓口チケット販売・前売券・コンビニ券チャンネルはピーター顧客も多く、下げ幅は10%以下に止まる

## ウィンターシーズン チャンネル別来場者数

チャンネル	2019/7期	2020/7期	前期比
窓口チケット販売	659	603	91.5%
ツアー会社利用	302	261	86.3%
地元旅館宿泊	173	126	73.2%
シーズン券	164	142	86.4%
前売券・コンビニ券	123	115	93.4%
団体・修学旅行	155	128	82.8%
キッズパーク・未就学児	32	19	61.4%
その他	84	68	81.4%
合計	1,692	1,463	86.5%

## 【単価上昇要因】

- グループの売上単価が最も高い川場スキー場の来場者数増加が全体の単価向上を牽引
- めいほうの売上単価が293円上昇し、例年並みまで回復
- 3月以降の集客減により、春スキー料金や、旅行会社など売上単価が低いチャネルが相対的に低下



- 例年は2020年4月下旬から施設ごとにグリーンシーズン営業を開始するが、緊急事態宣言により5月中旬まで営業休止。多数の来場があるゴールデンウィーク期間を逃す
- 天候面では2019年10月の台風19号及び2020年7月の梅雨の長期化も影響
- 岩岳はHakuba Mountain Harborが前期10月オープンのため、当期8月・9月分がそのまま上乘せとなり+5.6%となった

## グリーンシーズン 施設別来場者数

(単位：千人)

施設名	2019/7期	2020/7期	前期比
国際山岳リゾート白馬八方尾根(HV*)	93	73	78.2%
白馬岩岳マウンテンリゾート(HV)	91	96	105.6%
拇池高原(HV)	85	64	75.9%
竜王マウンテンパーク	98	74	75.2%
<b>小計</b>	<b>369</b>	<b>308</b>	<b>83.6%</b>
鹿島槍スポーツヴィレッジ	12	7	60.5%
めいほう高原	25	21	84.8%
川場リゾート	40	36	90.5%
<b>合計</b>	<b>447</b>	<b>374</b>	<b>83.7%</b>

(\*)HV : HAKUBA VALLEY

**1. 決算概要**

**P. 3**

**2. 施設別状況**

**P. 8**

**3. 2021年7月期計画**

**P. 16**

**4. Appendix**

**P. 24**

- コロナ禍においてグループ全体で無理・無駄をなくし、コスト圧縮を実施
- コロナの影響を2021年春頃まで見込み、それ以降は例年並みを想定
- 気候変動が常態化することを想定。降雪機投資により冬期の営業日は確保

## 2021年7月期 損益計画

(単位：百万円)

	20/7期	21/7期 計画	増減	前期比
売上高	6,063	5,400	△ 663	89.1%
原価+SGA	5,746	5,080	△ 666	88.4%
営業利益	317	320	3	100.9%
経常利益	388	320	△ 69	82.3%
当期純利益	139	160	21	114.7%
EBITDA	876	922	46	105.3%
運営スキー場数	8ヶ所	8ヶ所	-	

## 前提条件

- 新規スキー場：想定せず、既存スキー場のみ
- コロナの影響：インバウンド来場者ゼロ、バスツアー・団体減。営業は通常どおり実施
- 天候：小雪、暖冬リスクを織り込むが、降雪機投資により例年並みのオープン

## ウィンターシーズン 来場者計画

(単位：千人)

運営スキー場名	2020/7期	2021/7期	前期比
HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場	299	244	81.7%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド	52	65	125.2%
HAKUBA VALLEY梅池高原スキー場	242	227	93.7%
HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場	81	79	97.8%
竜王スキーパーク	203	135	66.7%
川場スキー場	183	144	78.5%
めいほうスキー場	169	150	88.9%
菅平高原スノーリゾート	231	192	83.0%
合計	<b>1,463</b>	<b>1,237</b>	<b>84.5%</b>

## 前提条件

- コロナの影響：上期は影響継続。下期は落ち着き例年並みの来場を想定
- 天候：前期10月は大型台風による来場者数の激減があったが今期想定なし  
また、梅雨明けは7月後半を想定

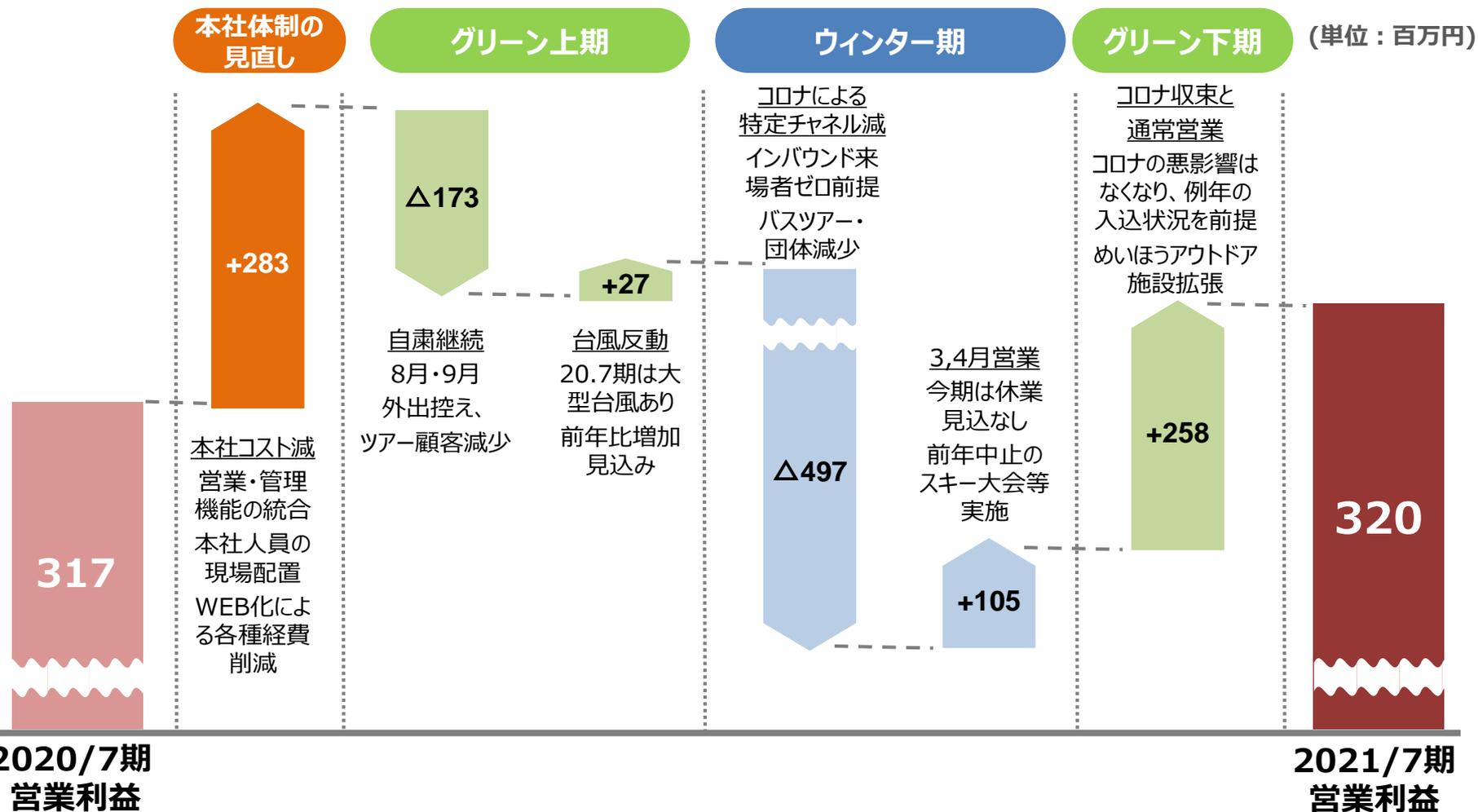
## グリーンシーズン 来場者計画

(単位：千人)

施設名	2020/7期	2021/7期	前期比
HAKUBA VALLEY国際山岳リゾート白馬八方尾根	73	66	90.0%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳マウンテンリゾート	96	115	119.7%
HAKUBA VALLEY梅池高原	64	54	83.8%
竜王マウンテンパーク	74	77	104.7%
<b>合計</b>	<b>308</b>	<b>312</b>	<b>101.2%</b>

# 2021年7月期前提条件

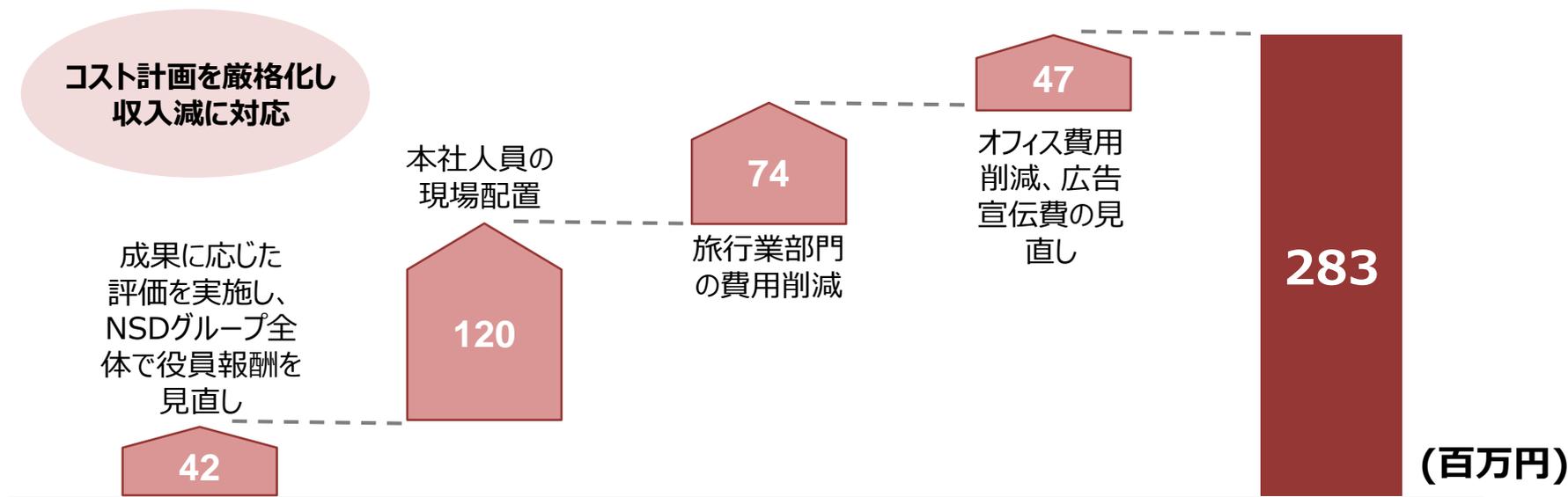
- インバウンド来場者数はゼロとする
- グリーンシーズン下期はコロナ環境が落ち着き、例年並の来場者数を想定



- コロナを機に本社の無理・無駄を徹底して排除。一方で、運営会社の強化を図る
  - ① 重複部門の統合等により、本社人員約30名を運営会社へ配置。現場運営力を強化し、上昇傾向にあった季節アルバイト費用や外注人件費を削減
  - ② 旅行業部門の体制を見直し、コロナにおける旅客取扱減に対応
  - ③ WEB化に伴うテレワーク導入や旅費等の合理化。また、広告の費用対効果を再検証

283百万円の  
利益押上効果

## 本社関連費用の適正化



# 降雪機投資による安定営業 ～気候変動対策～

- 降雪機投資による安定した営業日数の確保
  - ▶ 暖冬小雪でも早期オープンし、春先までの営業を実現
- 暖冬小雪の20年7月期はコース拡大できたスキー場が特に優位

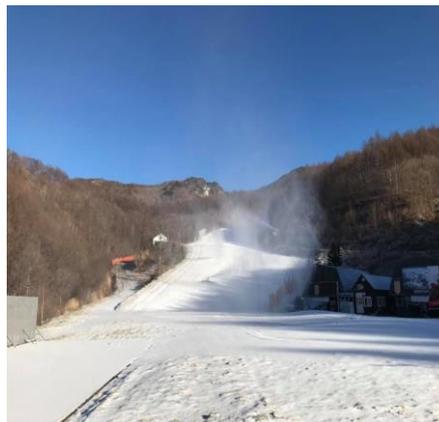
- ⊕ 川場 : 来場増、単価向上
- ⊕ 竜王・菅平 : 他スキー場からの顧客振替あり
- ⊖ 八方・岩岳 : 他スキー場に顧客流出

▶ **降雪機により下山コースまで雪がつながるグレンデをつくる**

## 白馬八方尾根への導入



## 降雪機のイメージ



- 21年7月期は鹿島槍、八方、岩岳、柵池、めいほうに追加導入
- 海外メーカーから直接輸入し導入コストを下げる
- 全自動機能により人件費も抑制可

- めいほうでは、7月22日にジップラインやバギーパークを新設したアクティビティパーク“ASOBOT”をオープン。8月もキャンプ需要は好調であり、来春には新アイテム「アクロスパイダー」を設置。また、鹿島槍も新規にキャンプに取り組む
- 岩岳ではリゾートテレワークを展開し、コロナに対応したワークスタイルをご提供

## めいほうアウトドアと鹿島槍のキャンプ事業



- Withコロナに対応した、自然の中での事業展開
- キャンプチェックイン時の検温等、感染防止対策も徹底

## 岩岳のリゾートテレワーク



## 1. 決算概要

P. 3

## 2. 施設別状況

P. 8

## 3. 2021年7月期計画

P. 16

## 4. Appendix

P. 24

## HAPPY TRIANGLEの形成

- 貴重な【自然】を最大限活用し、非日常的な空間・サービスを提供し、
- スキーヤーに関わらず多種多様な【顧客】が訪れ、
- スキー場を含めた【地域社会】全体が潤っていくことが最大のミッション

### 自然の活用・自然との共存

- 冬だけでなく四季折々の魅力を活かす
- 貴重な自然を次世代へ繋ぐ
- 自然の脅威から、顧客を守る

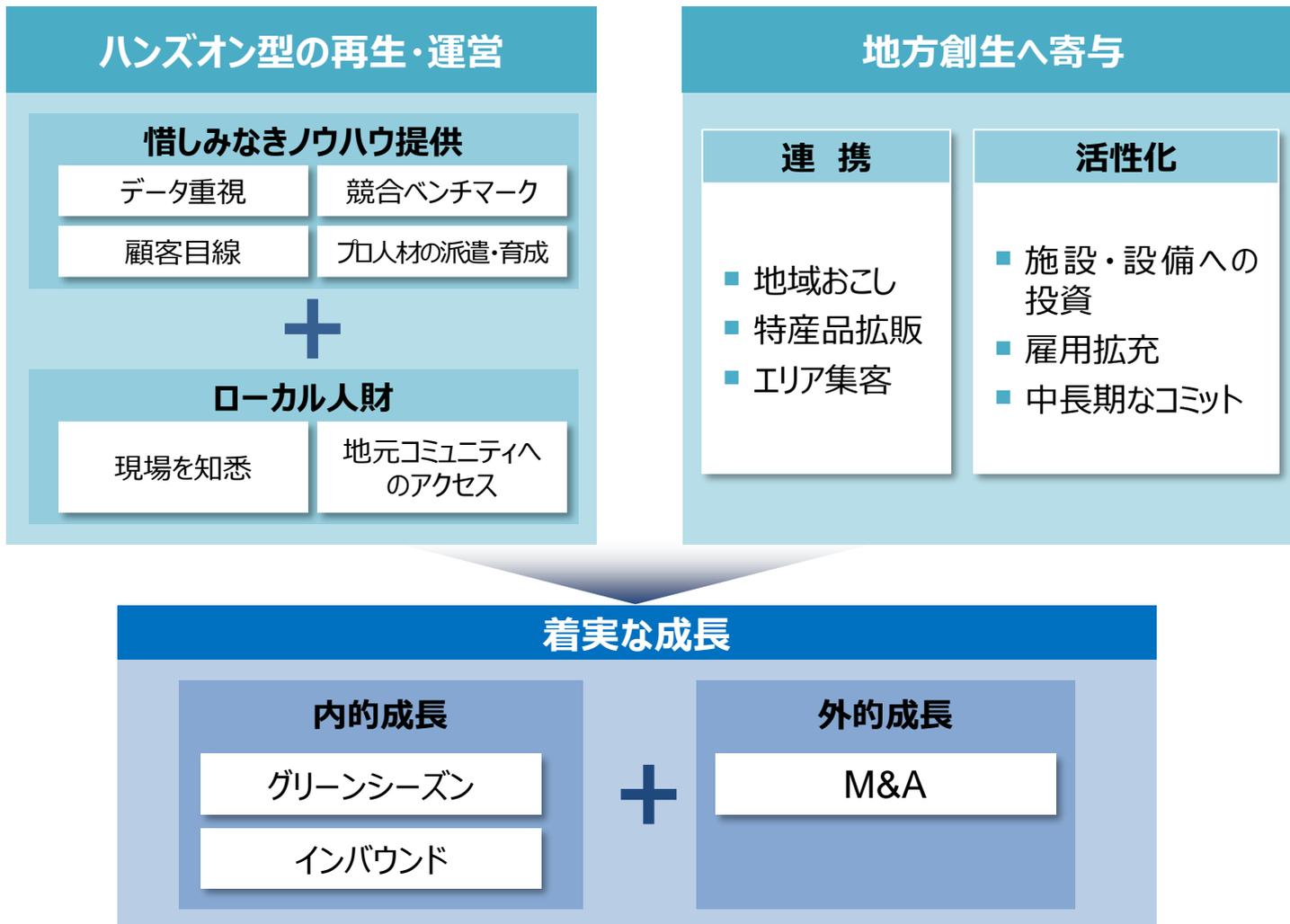
### 様々な客層を集客

- ノンスキーヤーにとっても魅力的なリゾートづくり
- 国内だけではなく、海外からも集客

### スキー場を基点とする地域活性

- 地元パートナーと手を結び、スキー場発の魅力向上を目指す
- マネジメントのローカライズにより、地域との調和を目指す

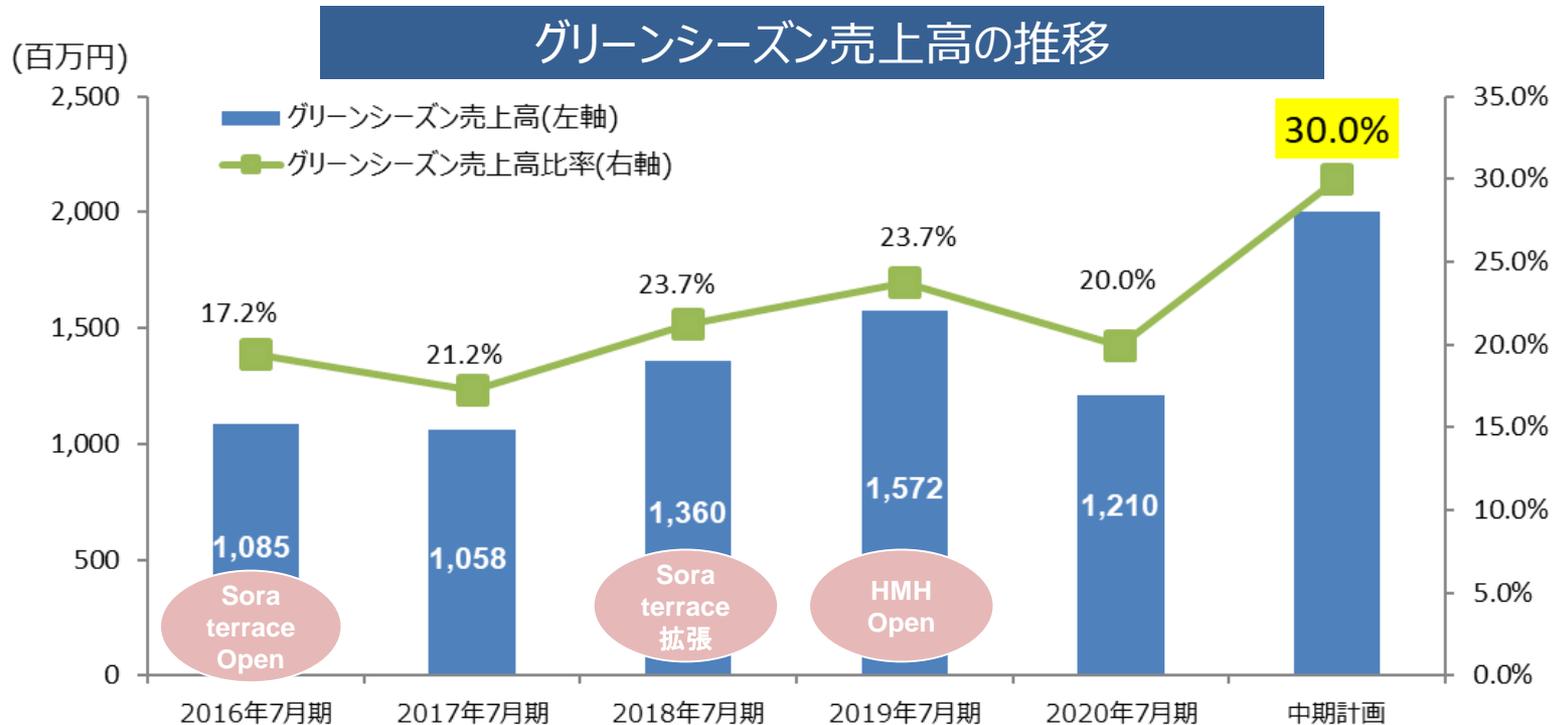




# 当社グループのスキー場

	HAKUBA VALLEY 鹿島槍 スキー場	竜王 スキー パーク	川場スキー場	HAKUBA VALLEY 八方尾根 スキー場	HAKUBA VALLEY 岩岳スノー フィールド	HAKUBA VALLEY 柵池高原 スキー場	めいほう スキー場	菅平高原 スノーリ ゾート
グループ化	2006年9月	2009年11月	2010年10月	2012年11月	2012年11月	2012年11月	2014年10月	2015年11月
立地	白馬エリア (長野)	志賀エリア (長野)	沼田エリア (群馬)	白馬エリア (長野)	白馬エリア (長野)	白馬エリア (長野)	奥美濃エリア (岐阜)	上田エリア (長野)
標高 山頂-山麓	1,550-830(m)	1,930-850(m)	1,870-1,290(m)	1,831-760(m)	1,289-750(m)	1,680-800(m)	1,600-900(m)	1,650-1,250(m)
総面積 (当社所有面積)	78ha(35ha)	95ha(11ha)	60ha(0.1ha)	200ha(2ha)	125ha(10ha)	156ha(0.4ha)	96ha(-ha)	175ha
リフト本数	8	13+ ロープウェイ1基	5	24+ ゴンドラ1基	9+ ゴンドラ1基	19+ゴンドラ1基+ ロープウェイ1基	5	19
来場者数 (20年7月期ウイ ンターシーズン)	81千人	203千人	183千人	299千人	52千人	242千人	169千人	231千人
ゲレンデ特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>北アルプスを望む雄大な景観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>166人乗りロープウェイ</li> <li>幅広いゲレンデ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心から2時間圏内</li> <li>良質な雪質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野オリンピックのアルペン競技会場、スキーヤーのメッカ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国岩岳学生スキー大会が有名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>柵池自然公園の散策、トレッキングなど夏季営業も盛ん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋中心部から2時間圏内、良質な雪質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏から日帰り圏内に立地しアクセス良好</li> </ul>
主要な客層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層	首都圏からのバスツアー利用者	首都圏からの日帰り顧客	初心者～上級者、関東・中部・関西から幅広い客層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層	初級者～上級者、関東・中部・関西から幅広い客層	名古屋圏、関西圏のファミリー及び幅広い層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層

- 竜王では2015年10月にSORA terraceをオープンし、来場者数は9千人(15/7期)から98千人(19/7期)まで増加
- 山頂テラスのノウハウを横展開し、白馬岩岳マウンテンリゾートではHAKUBA MOUNTAIN HARBOR(HMH)を2018年10月に開業。来場者数は34千人(18/7期)から96千人(20/7期)まで増加
- グループのグリーンシーズン売上高は16年7月期の1,085百万円から、19年7月期は1,572百万円まで増加。20年7月期はコロナの影響によるクローズにより、1,210百万円となった



## 竜王 Sora terrace

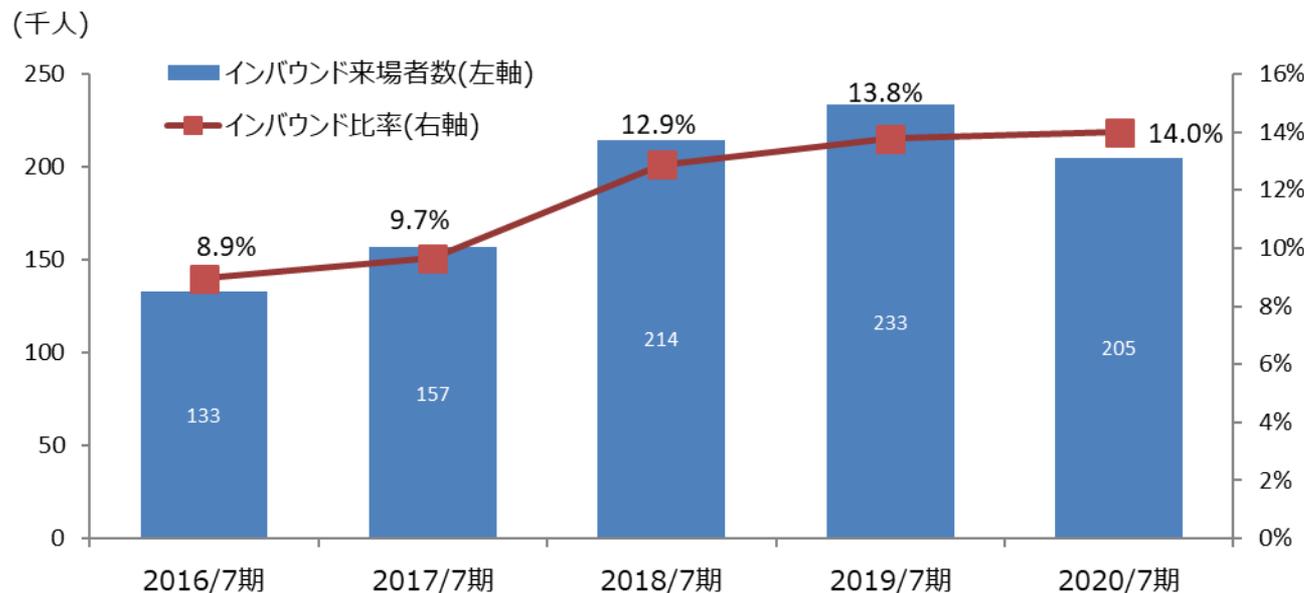


## Hakuba Mountain Harbor

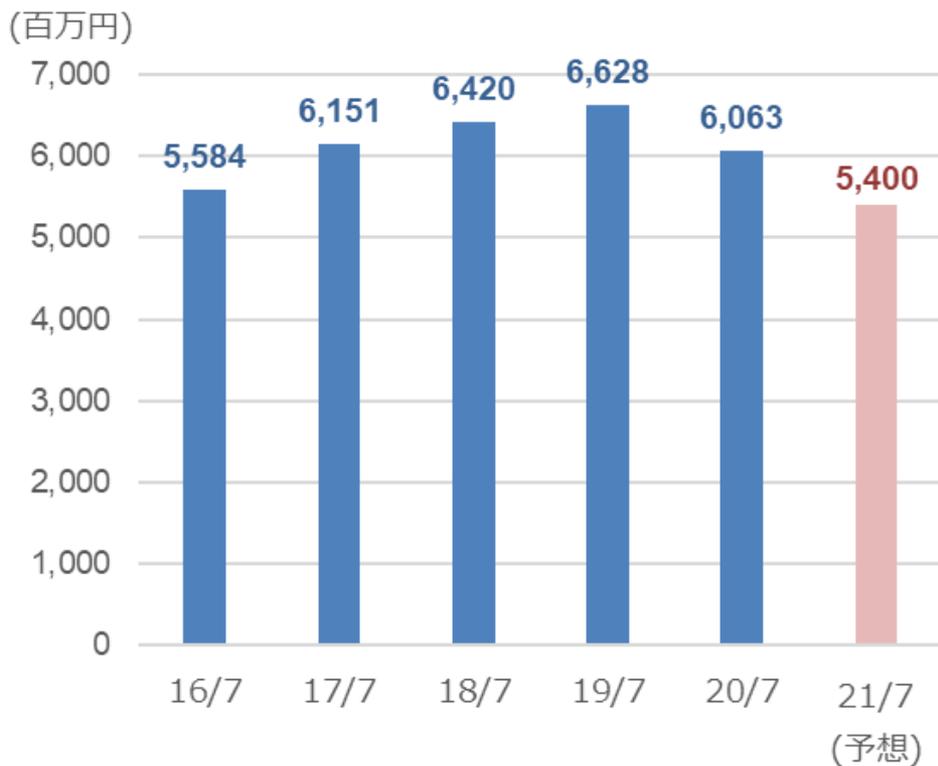


- 21年7月期はコロナの影響もあり、インバウンド来場者は計画上見込まない
- しかしながら、コロナ収束後のインバウンド再来場をにらみ、スキー場ベースエリアにおける大型ホテルやアコモデーション不足に対しては、地域連携し、中長期的に解決
- ソフト面でも外国人向けのスクールやサービス等、地域の外国人とも連携しながら改善を継続

全グループスキー場来場者に対するインバウンド来場者割合



## 売上高



## 営業利益

